

サステナビリティ日本フォーラム 2008 年度事業活動報告書

(2008 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日)

1. 2008 年度 事業報告にあたって

当法人は、2002 年 10 月 2 日に、内閣府より特定非営利活動法人の設立認証を受け、法人登記を完了し、特定非営利活動法人 GRI 日本フォーラムとして活動をしてきた。以来、6 年が経過した。世界と日本のサステナブルな社会づくりに向けた意識・行動は大きな変化を見せており、2006 年 11 月に開催した GRI ガイドライン第三版発表シンポジウムでは 330 名を集客するなど、サステナビリティへの関心が益々高まっていることが伺える。こうした流れを受け、GRI と緩やかな覚書 (MOU: メモランダム オブ アンダースタンディング) を交わし、良好な関係を保ちながら、従来の活動目的である「持続可能な社会の構築を目指す」活動をさらにレベルアップしていくため、2006 年度総会での議決を経て 2007 年 8 月 1 日「サステナビリティ日本フォーラム」と名称変更し、新たなスタートを切った。2008 年には、GRI ガイドライン第三版のピアレビューが終了し、正式版の発行、販売が始まった。販売に際しては、GRI 本部と当フォーラムの間でガイドライン 1 冊販売するにつき、5 ユーロを GRI 本部に納めることを合意し、覚書を交わした。

以下に示す様々な活動は、142 会員 (2008 年 12 月現在) からの会費収入及び多岐にわたるご支援と、13 名 (同上) の運営委員による無償の活動、18 名の役員と 23 名の評議員の皆様のご支援とご協力によって成り立っている。特に 2008 年度は、運営委員の主導による勉強会やシンポジウム等の開催が実施され、各運営委員は企画・事前打ち合わせ・当日の進行・アンケートの集計・改善提案にいたるまでご尽力頂き、大変充実した活動となった。

2. 2008 年度 事業報告

サステナビリティ社会構築に向けた調査・研究・支援事業

2050 年の会

企業が抜本的な中長期計画を持つ必要性を鑑み、また、サステナビリティ日本フォーラムが企業と協働によるプラン作成を事業として行なうことによって、企業の外部機能の役割を担うという意義を持つと考え、本プロジェクトを企画した。2008 年 3 月に会員限定でメンバーを募り、会員有志 12 名とクローズドで毎月 2 回、約半年間にわたって研究会を開催した。毎回宿題が課され、その宿題を持ち寄って検討を進めた。

期間: 2008 年 4 月～9 月、毎月 2 回

アウトプット: ①企業が 2050 年に CO2 を 90% 削減する「超長期ビジョン」策定に必要な資料・手段の調査および研究
②企業の「超長期ビジョン」策定を企業とサステナビリティ日本フォーラムとの協業で行なう際のコンサルティングツールの策定

ECO プラットフォームの立ち上げ

特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォームが中心となり ECO プラットフォームの立ち上げを行なった。サステナビリティ日本フォーラムは 2008 年 6 月 27 日の「ECO プラットフォーム」の立ち上げの準備会合から、2008 年 12 月 26 日の最終報告書提出までの期間、設立準備委員会のメ

ンバーとして参加し、環境分野の有識者を招いて環境課題・NPO の活動事例の共有を通じ、アクションプランの策定まで参画した。

企業の CSR 活動を啓発・促進する事業

勉強会

1. CSR シリーズ勉強会「グローバル視点と日本の CSR」(5 回シリーズ)

参加者 各回約 20~30 名

企業が CSR 課題を決定する際に重要な視点であるマテリアリティについて掘り下げる。日本国内ですすんでいる CSR 活動と、国際社会で注目されている CSR 課題の優先順位には微妙な違いがある点に焦点をあて、このシリーズ勉強会では、国際的に注目されている視点を中心に国内外の取り組み事例を紹介していった。また、会場については あいおい損害保険(株)様のご厚意により、新宿ビル 3F 会議室内を提供頂いた。

第 1 回「GRI ガイドライン第 3 版の活用」: 4 月 22 日(水)

講師:株式会社クレアン CSR コンサルタント 山口智彦氏、
サステナビリティ日本フォーラム代表理事 後藤敏彦

第 2 回「労働と CSR」: 5 月 19 日(水)

講師:株式会社ファーストリテイリング CSR チームリーダー 加藤祥子氏
日本労働組合総連合会 副事務局長 逢見直人氏

第 3 回「生物多様性ガイドラインと国内ベストプラクティス」: 6 月 19 日(水)

講師:株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役社長 足立直樹氏
株式会社ブリヂストン ブランド推進部 課長 浅井 稔氏

第 4 回「海外 CSR ベストプラクティス」: 7 月 28 日(水)

講師:日本サムスン株式会社 戦略企画室 チーム長 部長 難波謙一氏
マイクロソフト株式会社 政策企画本部 本部長代理 兼 社会貢献部長 竹原正篤氏

第 5 回「グローバル視点と日本の CSR」: 9 月 3 日(水)

講師:気候ネットワーク 平田仁子氏、
イオンモール株式会社 管理本部 CSR 推進部
環境社会貢献グループゼネラルマネージャー 松井正子氏

2. CSR 担当者のための CSR 基礎講座(企業における CSR への対応)

企業の CSR 担当初心者を対象に、少人数制(Max6 名)・完全予約制ゼミ形式の CSR 基礎講座を月 1 回のペースで、計 10 回開催した(8 月と 12 月は休講)。参加者は各回 3~6 名であり、会後のアンケートにおいて高い満足度を得ている。

講 師:サステナビリティ日本フォーラムアドバイザー 鎗野達男(元帝人㈱CSR 活動推進者)

シンポジウム

サステナビリティ日本フォーラム定例シンポジウムを開催

~未来に向けた企業価値の転換~

「企業の経営戦略としての超長期ビジョンの重要性」および「バックキャストिंगの考え方」が今回のシンポジウムのテーマであった。第一部は「2050 年からのバックキャストिंगの必

要性」、第二部は「2050年ビジョンの紹介」、第三部は「海外企業のサステナビリティ戦略」、第四部はパネルディスカッションで「未来に向けた企業価値の転換」と題して開催。企業・NGO・学生など様々な立場の方が参加して、最終110余人を集客した。

日程:2008年10月24日(金) 13:30~17:00

場所:あいおい損保 新宿ホール

登壇者(順不同):

サステナビリティ日本フォーラム 2050年の会研究メンバー 伊藤佳代

サステナビリティ日本フォーラム 2050年の会研究メンバー 桑原 清

セイコーエプソン 地球環境推進部 課長 平島安人氏

イノベスト Director Tokyo 相馬宏充氏

大和総研 経営戦略研究所 主任研究員 河口真理子氏

味の素株式会社 広報・CSR部 専任部長 中尾洋三氏

WWF ジャパン 法人グループ長 栗野美佳子氏

他団体のセミナー、シンポジウム協力

《協力》

第1回 『持続可能な社会のための ODA と公的融資』

— 海外開発プロジェクト融資の「環境・社会・ガバナンス」強化に向けて—

2008年1月16日 場所:環境パートナーシップオフィス

主催:地球・人間環境フォーラム

『資源開発とCSR～環境社会影響とその対策～』

2008年3月12日 場所:JICA 地球ひろば

主催:地球人間環境フォーラム、国際環境 NGO FoE Japan

第2回 『持続可能な社会のための ODA と公的融資』

—海外開発事業の社会的影響—

2008年4月11日 場所:環境パートナーシップオフィス

主催:地球・人間環境フォーラム

《後援》

『地球みらい子ども共和国』建国記念イベント

—美しい地球を子どもだちに—

2008年5月25日 場所:神戸ベイシェラトンホテル

主催:地球みらい子ども共和国建国委員会

『ESD カフェ 持続可能な未来の描き方』

—あなたは20年後の持続可能な社会を描けますか?—

2008年10月29日 場所:地球環境パートナーシップオフィス

主催:持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)

『CSR 調達とステークホルダーエンゲージメント』

—カカオ産業の児童労働から学ぶ、企業とNPOの共同—

2008年10月30日 場所:国際フォーラム

主催：特定非営利活動法人 ACE

《協賛》

『サステナブルな社会構築に向けて』

—企業と投資家に求められること—

2008年11月19日 場所：日本科学未来館

主催：グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク、UNEP-FI、SIF-Japan

その他

メールマガジン・ホームページなどによる情報提供

毎月1回(月初)発行のメールマガジンやホームページにて、GRIに関するニュースに加えて、特に海外の報告書の最新事情やCSRの動き、サステナビリティ日本フォーラムの勉強会・セミナーなどの情報を発信した。(メールマガジン登録数1183件)

サステナビリティ・リポーティングの国際標準をめざす GRI ガイドラインの普及・啓発事業

ガイドライン頒布

実績：第二版 52冊 第三版(暫定版)2335冊 第三版(正式版)販売 197冊 無料配布 140冊
(内 2008 年度の実績)

第三版(暫定版)15冊 第三版(正式版)販売 197冊 無料配布 140冊

(頒布の傾向)

GRI ガイドライン第三版和訳(正式版)が8月にピュアレビューを終えて販売されると同時に和訳暫定版の無料配布は終了した。販売先は多種多様であるが、主には企業CSR担当者や大学の研究者などであった。尚、GRIガイドライン第三版の日本語版発行については草稿・本稿ともに三井物産環境基金からの助成を受けている。

また、販売したGRIガイドライン第三版について、GRI本部との間で販売1冊あたり5ユーロをGRI本部に納入することで合意覚書を交わしている。2008年度の実績は985ユーロであった。

サステナビリティ・リポーティングに関する研究を推進し、国内外へ提言・提案を行なう事業

エコプロダクツ 2008

毎年恒例、日本最大の環境展エコプロダクツ2008に出展し、会員企業の発行するCSRレポートの展示・紹介、GRIガイドライン第三版和訳正式版の紹介、サステナビリティ日本フォーラムの活動紹介のプレゼンテーションを行った。さらに「CSRチェックシート」を配布するなどしてCSRの認知度を広めるよう努めた。また、9名の当フォーラム理事と運営委員による「CSRコンシェルジュ」が、CSR全般に関する質問・相談に応じ、CSRおよびサステナビリティについて啓発するとともに、当フォーラムの活動についても知らしめることができた。ブース来場者はのべ約400名余。

日程：2008年12月11日(木)～13日(土)10:00～17:00

場所：東京ビックサイト

以上